

単元名 名探偵こ・そ・あ・ど～こそあど言葉を見つけて使いこなそう～
「こそあど言葉を使いこなそう」(光村図書3年)

1 単元について

【単元観】

本単元は、小学校学習指導要領 国語 第3学年及び第4学年の内容〔知識及び技能〕の言葉の特徴や使い方に関する事項〔(1)カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること〕を具体化した「名探偵こ・そ・あ・ど～こそあど言葉を使いこなそう～」という言語活動を位置付ける。教材文「こそあど言葉を使いこなそう」は、こそあど言葉の働きと注意すべき点を押さえ、こそあど言葉を使えるようになることができる単元である。

【児童観】

本学級の児童は、元気がよく、活動が大好きである。一方で、大人しく、表現が苦手な児童もいる。学習中の発表をする児童には偏りがあり、活動的な児童ばかりになりがちである。まだ3年生ということもあり、生活経験が少ない児童は知らない言葉も多く、どのような場面で使われる言葉なのか想像がつきにくかったり、どのような意味として使われているのかが分からなかったりと、困惑している場面もある。しかし、国語辞典の使い方を学習し、新しい言葉と出会ったときには、自分たちで国語辞典を使って調べる力が付いてきた。回数を重ねることで自信が付き、自分から進んで学ぶことが出来るようになった。授業時間の最後に書く振り返りも、回数を重ねることで、本時のねらいに即した振り返りが書けるようになってきた。生活で生かしたい場面や、もっと学習したいことなど意欲の高まりが見られるようになってきた。しかし、まだ何を書けば良いかわからない児童もいることや、ねらいから外れた振り返りを書く児童がいることが課題である。

【指導観】

指導に当たっては、次の点に留意して進めていきたい。一つ目は、日常生活と結びつけながら学習を進めることで、主体的に学んだり、学習が終わった後にも活用できるようにしたりすることである。本単元で学習する「こそあど言葉」は、学習する以前から使うことはできているはずである。どのような場面で使っていたのかを想起させることで、より身近に感じ、主体的に学ぶことが出来るようになる。そして、それらの種類や役割について捉え直し、どのように使ったらよいか指示する語句を使うことでより簡潔に表現されたり、文と文との内容のつながりを明らかにできることを実感させたりするため、実際の場面を想定しながら学習を進めることで、今後に生かしていくようにする。

二つ目は、毎時間ごとにできるようになったことや、付いた力を今後どのように学習や生活に活かしていきたいかを振り返らせるようにする。その際、振り返りの視点を示したり、友達の振り返りを聞いたりすることで、振り返りの質の向上も目指したい。

2 単元の目標

- 指示する語句の役割について理解することができる。 【知識及び技能 (1)カ】
- 学習課題に沿って、指示する語句の役割を積極的に理解し使おうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
【言語活動例】 言語活動 「名探偵こ・そ・あ・ど～こそあど言葉を使いこなそう～」		
指示する語句の役割について理解している。		学習課題に沿って, 指示する語句の役割を積極的に理解し使おうとしている。

4 付けたい資質・能力

主体性	目標・見通しをもって進んで学習に取り組み, 既習を生かしたり, 目的や場面に応じて手段や方法を工夫したりすることで, 目標を達成しようとする力。
コミュニケーション能力	相手意識・目的意識をもって自分の思いや考えを伝える力。
メタ認知	学習活動を振り返り, こそあど言葉を見つけ, まとめたことを確認し, 日常生活に生かしたり, 今後の学習の中でも活用したりすることができる力。

5 単元計画 (全2時間)

次	時	学習内容	評価			
			知・技	思・判・表	態度	評価規準 (評価方法)
一	1 本時	課題の設定, 情報の収集, 整理・分析 「こそあど言葉」を知り, 相手との距離や目的などによって使い分けがあることを理解する。	◎		○	<ul style="list-style-type: none"> 指示する語句の役割について理解している。 【知・技】(ノート, 行動観察) 学習課題に沿って, 指示する語句の役割を積極的に理解し使おうとしている。 【態度】(発言・行動観察)
	2	まとめ・創造・表現, 振り返り 「こそあど言葉」を使うことで, 文をより簡潔に表現できるようになることを理解する。 学習のまとめをする。	○			<ul style="list-style-type: none"> 文章における指示する語句の役割を理解し, 文章中のどの言葉を指しているかを考えている。 【知・技】(ノート・ワークシート)

6 本時の学習

(1) 本時の目標

指示する語句の役割を理解し, その使い分けや会話で使う際の注意点を考えることができる。

【知・技 (1) 力】

指示する語句の役割を積極的に理解し使おうとしている。

【学びに向かう力, 人間性等】

(2) 観点別評価規準

指示する語句の役割について理解している。

(知・技 (1) 力)

(3) 準備物

掲示物 (こそあど言葉)

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項(・) 「◆努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て	評価規準(○) (評価方法)
展開	1 「こそあど言葉」について学習することを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「こそあど言葉」に注目させるために、こそあど言葉を使った短いやりとりを自動とすることで「こ」「そ」「あ」「ど」から始まる言葉であることを教える。 ・名探偵こ・そ・あ・どになりきって「こそあど言葉」集めをすることにつなげるために、「こそあど言葉」にはどんな役割があるのかを確認する。 	
	めあて	こそあど言葉を集めて、表にまとめ、使う場面を考えよう。	
	2 こそあど言葉集めをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・名探偵こ・そ・あ・どになり、知っている「こそあど言葉」や、見付けた「こそあど言葉」をノートに書かせる。その際、後で分類しやすいように色分けさせながら書かせる。 ◆こそあど言葉が見つかりにくい児童には、始めの一字を変えると見つけられることを伝える。 	<p>○指示する語句の役割を理解し、その使い分けや会話で使う際の注意点を考えることができる。(ノート)</p> <p>A: こそあど言葉の働きを理解し適切に使い分け、状況に応じて使い方を考えることができる。</p> <p>B: こそあど言葉がどのようなものか分かり、適切に使い分けすることができる。</p>
	3 全体交流をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートに書き出した「こそあど言葉」を発表させ、黒板に掲示していく。 	
	4 表にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間分けする時に、初めの言葉に注目させる、どんな場面で使うかをやりとりの中で見つけさせることで、自分との距離感が違うことに気付かせる。 ・相手との距離や目的などによって使い分けられることを確認するために、「こそあど言葉」を使った例文や場面が正しいか考えさせる。 	
	まとめ	こそあど言葉は、何かを指しめす言葉で、目的などによって使い分ける。	
まとめ	5 振り返りをする。		
	<p>☆目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こそあど言葉は知っていたけど、物の近さや遠さによって使う言葉が違うことが分かりました。 ・こそあど言葉の仲間分けをすることができたので、次は使ってみたいです。 		

(5) 板書計画

ふりかえり ・こそあど言葉は、何かを指し示す言葉で、目的などによって使い分ける。	様子	方向		場所	ものごと				
	こう	こんな	こっち	こちら	ここ	これ	この	こ	話し手に近い場合
	そう	そんな	そっち	そちら	そこ	それ	その	そ	相手に近い場合
	ああ	あんな	あっち	あちら	あそこ	あれ	あの	あ	どちらからも遠い場合
どう	どんな	どっち	どちら	どこ	どれ	どの	ど	はっきりしない場合	

こ
そ
あ
ど

こそあど言葉
 ・・・こそあどで始まる言葉
 何かを指ししめすはたらきをする言葉

こそあど言葉を使いこなそう
 めあて
 こそあど言葉を集めて、表にまとめ、使う場面を考えよう。